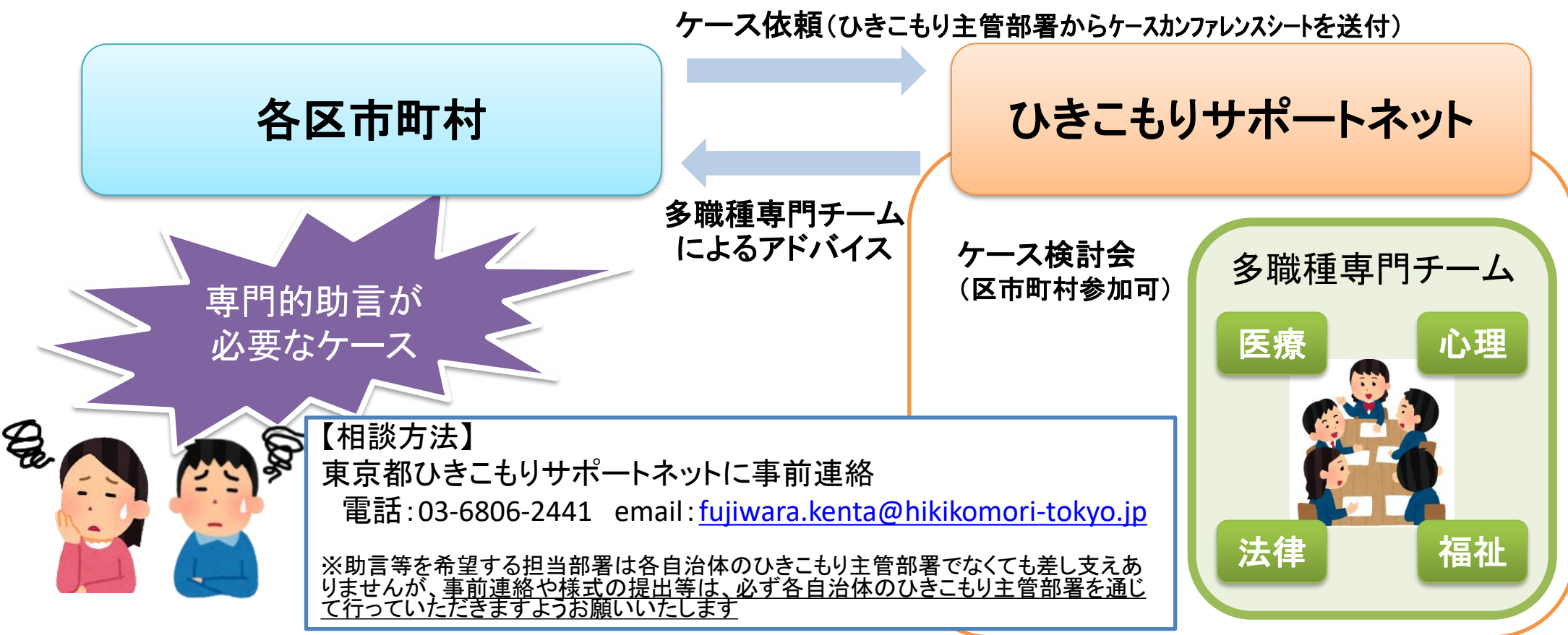


多職種専門チームの設置について

- 医療(医師)、心理(臨床心理士／公認心理師)、法律(弁護士)、福祉(社会福祉士／精神保健福祉士)の各分野について1名ずつの専門家により構成
 - ケースカンファレンス(隔月開催)により、区市町村に対する専門的アドバイスを実施
- * 相談ケース例:ひきこもりの課題に加えて生活困窮、介護、精神疾患、地域資源の不足など



今まで実施されたケースカンファレンス例

ケース①

- 当事者(60代・障害・介護認定有)、妻(専業主婦)、長男(障害者雇用で就労)、長女(正規雇用)の世帯
 - ・母と長女が本人の日常生活の世話を行っていたが、それぞれの理由により世話する時間を確保できなくなってきた。
 - ・しかし本人は公的な障害及び介護サービスを拒否している。
- (医療)親の介護で困っている人向けのネットワークの紹介
- (福祉)認知症で介護拒否があり困っている人向けのネットワークの紹介
- 本人が拒否しても受けれる公的サービスの紹介及びこれにより必要なサービスを受給できたケース例の紹介

ケース②

- 当事者(10代後半)、父の世帯
 - ・本人は私立小学校に入学後、母の教育虐待を受けていた。中2の時に母が亡くなってから勉強しなくなり、ひきこもり
 - ・父は自身の体調が万全でないため、本人の将来を案じ国民の義務を伝えるも、様々な弁明をし、変化なしのため相談
- (心理)本人のことばの裏を読んで関わるよう助言
 - 地頭が良く、丸く収まる方法を把握していると思われるため、返答があった際に「本当は〇〇なんじゃない？」と裏のことばを伝えたと効果的
 - また教育虐待を受けてきたなど、本人の思いを汲み取ってもらえなかった経験があるため、「家族」を体験させるために地域の居場所を紹介

ケース③

- 当事者(10代後半)、父の世帯
 - ・本人は不登校が原因で中2から他者と関わりがなく、ひきこもり。
 - ・当時父は不登校を認めず、父の価値観(いい大学、就職先へ進め)を押し付け、本人が家出したこともあった。
 - ・父は価値観の押し付けを反省し、家族会への参加や長期間民間カウンセリングを利用して本人への支援を実施。
- (心理)父は尽力しており、これ以上の支援は本人に逆効果のため、支援を控えさせるよう助言
 - 『よいアドバイスでも本人の気持ちが落ちている時は逆効果なので、色々伝えるのは止めましょう』
 - 『本人が情報を受け入れられるタイミングが来たら、伝えられるように情報収集する期間にしましょう』など